

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200935		
法人名	有限会社 敬仁会		
事業所名	有限会社 敬仁会 グループホーム 万富の郷		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1871-1		
自己評価作成日	平成26年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372200935-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372200935-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成26年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームも10年目に入りマンネリ化していくのが本当のようだが、郷は違う。スタッフは、入居者のアピールをも見逃さない。一人の日記付けをきっかけに次々とみんなが興味を持ち、今ではほぼ全員が当たり前のようにつけている。「お昼何食べたかなあ？」毎日聞かれる会話が心地よい。今は朝ドラに、はまっている。すぐ忘れてしまう皆だけどもそれもいい。今年はこのことになっています「あんたたちも年を取ったらここに来なさいよ、楽しいよ」ある利用者の方が息子さん夫婦に何度も言っている、この言葉が私たちの宝物です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

万富の郷のホームに一歩足を踏み入ると、思った通り和やかな空気が漂ってきた。それは十時のお茶の香りのせいだけでは無い。職員の申し送りの為のミニミーティングのやり取りが、私の心に温もりを感じさせてくれたからだろう。この十分程の間に職員間の連携のすばらしさや一人ひとりの利用者への思い入れの深さを、私は逸早く感じ取る事が出来た。その後、リビングでは高齢化・重度化した利用者の穏やかではあるが、活き活きとした姿に触れた。職員の引き出し方が上手く頻繁なので、心が満たされているのだろう。午後には各種書類の中からこれらを裏打ちする様な業務の数々を見だし、ほとんどの利用者が書いている日記からも顔けた。ある職員の小学生の娘さんのプレゼント(見事な手作り・貝合わせ)で楽しむ皆さんの嬉しそうな顔を心に残しながら、心暖まる多くのものをいただいで皆さんとお別れた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は地域密着型サービスの意義を理解し地域との交流を図り、調和して生活している。	2004年春にこのホームを設立して以来地域の方々との交流に力を入れ続け「地域の一員」として認められるようになると同時に、ホーム内では「利用者一人ひとりの些細な訴え」にも気付くより添いを実践し、穏やかで落ちついた日々を送っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の生協への加入、地域の移動商店の利用、畑の作物、花の差し入れがある。文化祭への参加。	「砂川清流太鼓が見物の夏祭り」「子供神輿が楽しいみな秋祭り」「地域の高齢者も少し大変になっているもちつき大会」等、ホームと地域の交流会では多くのボランティア・近隣の方々・家族等と輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の会合で介護相談にのったり、運営推進会議で認知症の相談の呼びかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や予定、前回の検討事項への経過報告をし、家族を含め参加者の意見をもらうこと、同時にできる限り利用者も参加して交流を図っている。	包括支援センター担当者・町内会長・民生委員・利用者・家族等が参加して、2ヶ月毎に実施している。ホームの情報や各種報告・検討事項・意見交換等、運営推進会議の記録はその都度リビングの中央に掲示し、オープンにしている。	定期的に、地域に根付いたホームの運営を目指して開催し続けているが、参加者・開催の形・記録の方法・活用の為のプロセス等、まだ工夫の余地があると思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員、包括支援センター担当者に現場の実情を知ってもらい協力体制を図っている。	運営推進会議には包括支援センターの担当者が出席し、情報を提供したり、意見や質問に対して助言をする等、会議の記録からよくかかろう事ができる。近隣のホームの職員との交流と共に行政との協力関係を築いている。	地域密着型サービスの介護施設の場合は特に市町村担当者との綿密な連携が重要と思う。些細な問題や不安な事については、その都度こまめに相談しておきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を徹底し、一人一人のその日の気分や状態を把握し自由で安全な生活を支援している。	現在の利用者の平均年齢が90歳を越えるような状況であっても、このホームの理念の一つとも言える「一人ひとりの徹底的な見守り」「職員の互いの情報共有」その他の業務によって身体拘束が全く必要の無い日々を送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアを発見したら対応方法について話し合い、決してしないと確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者が以前いたため、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時事業所の方針をしっかりと理解してもらい退居を含めた対応可能な範囲について時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「万富の郷便り」で毎月連絡欄を設けざっくばらんに状態を伝え、面会時、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	毎月家族に送っている「万富の郷便り」の中には、個別の「個人連絡表」を設置しており、情報提供はよく出来ているし、家族とホームの関係は親密でコミュニケーションも日常的によくとれている。	ホーム側から家族への働きかけは良く出来ているし、家族に対する「苦情を促す働きかけ」もとても好感が持てる。今後は運営推進会議で見られたように「家族の参加を増やす」や「本人の発言を促す」等、ステップアップを期待している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の綿密な申し送りとミーティングと月に一度職員会議を開き意見交換をしている。出来ることはその日より実行している。	「どんな事でもお互いわだかまり無く言い合えるし、困った事があれば助け合う雰囲気が自然に出来ている」という言葉を聞くまでもなく、お互いの会話を耳にするとすぐ理解できるし、スタッフの移動がほとんど無いという事もそれを証明している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も勤務に入り入居者と過ごしたり個別に職員の業務や悩み事の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の呼びかけとヘルパー、ケアマネ、介護福祉などの資格の修得も務めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区内に関連の事業所の集まりがあり参加して情報交換や質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で本人が置かれている状況を理解し、本人の思いや不安を受け止めるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安なこと、求めていることを理解しどのような対応ができるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に管理者、ケアマネージャーが本人に会いに行ったり来てもらったりして信頼関係が持てるように工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から利用者に教えてもらうことが多く、お互いが協働しながら穏やかな生活が出来る様配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日ごろの状態をこまめに伝え、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人や習い事のお弟子さんの面会があったり、つながりを継続できる支援をしている。	買物をしている時、かつての友達と出会い「ちょっと行ってもいいか」という話になったり、以前ホームに居た人の家族が訪問してくれる等、地域の人々も敷居の低いホームと感じてくれるようになっていし、職員も馴染みの関係が続くよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事のときは、職員も一緒に多くの会話をもち利用者同士が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても行事に招待したり、差し入れがあったり交流は怠っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々かわりの中での会話より本人の意向を見出している。気づきノートを利用し新しいことの発見は赤ペンで記録している。ケアプランへも反映している。	その人・その時の思いや意向を聞こうとする姿勢に関しては、このホームの雰囲気や方法に独特の良さがある。種々のチャレンジが見られるが、シフトに入っていない代表者の存在は大きいと私は感じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、利用前のケアマネージャーの力を借り、生活歴やライフスタイル、価値観を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握し、本人への働きかけを含め確認、記録するようにしている。日々寄り添って日記付けも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に日常生活の中で思いや意見を聞き、職員全員で意見交換、カンファレンスを行っている。ホワイトボードの活用。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、気づきノート、申し送りノートの作成で、日々の申し送りですべての職員が確認できるようにして計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加することで情報交換、協力関係が強化された。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得する掛かりつけ医での受診、往診としている。家族への情報提供も怠らないようにしている。	ほとんどの利用者はホームのかかりつけ医の月1回の往診や採血等必要な対応をお願いしているし、従来のかかりつけ医への受診を希望する人には家族が付き添い情報を共有するよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、健康管理、状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。居ない時は記録を基に連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し短期間の治療とスムーズな退院ができる様医療機関と連携を取り、積極的な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ事業所が対応しうる最大の支援方法方針を話し合い、取り組んでいる。ターミナルケアについても慎重な対応をしている。	高齢者と言っても百歳に手の届きそうな利用者を見て現状としては、職員は常に目配りを怠る事無く緊張感を持ち、医療ともよく連携しながら対応している。また、少しの変化にも予測出来る事態を想定し、その都度家族とも向き合っじっくりと話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生マニュアルを作成し、夜間の連絡方法等色々なケースを想定しながら話し合いを繰り返している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年二回の訓練を入居者と共に行っている。地域の協力体制も運営推進会議で呼びかけている。地震時想定訓練も行っている。	昨年度は利用者「南海トラフ地震が大きく問題になっているから」と話し、地震対応の避難訓練をした。運営推進会議でも随時災害対策について話し合っているし、スプリンクラー設置も現在見積り段階である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳ある姿を大切に、目立たずさりげなく自己決定しやすい言葉かけに配慮する。	血圧が心配といった身体的問題がある人・家庭の内情を表に出さない方が良い場面もある人等、それぞれが持つ諸事情を全職員はきっちり飲み込んで対応している。食事・排泄を始めとしてその人の人格を尊重しながら個人の希望にもできる限り添えるよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と過ごす時間を通して希望、関心、施行を見極めそれを基に本人が選びやすい場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが時間を区切った過ごし方にせず、出来るだけ個別性を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元理容師に本人希望の髪型にしてもらったり、更衣、入浴時着替えの服を選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一日の大切な活動の場の一つとし、入居者とメニュー作り、調理、盛り付け、片付けを行っている。	家庭で普通に「何が食べたい？」と聞かれたり、今日の昼食のように誰かの思いつきから嬉しい献立が決まる事もある。減塩等体調管理も重視しながら「食べるのが一番の楽しみ」の要望に職員は色々な工夫をしている。食器洗いに精を出すお母さんも居た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量のチェックと月々の体重測定を怠らず、本人に合った食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は見守り、できない方も本人の能力に応じた歯磨きの手伝いをしている。訪問歯科による定期的口腔ケアも利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁量の少ない入居者は紙パンツから布パンツへ、またオシメの種類や当て方も常に工夫して取り組んでいる。	排泄の自立支援には、このホームは格別力を入れている。入居時から考えると改善する人が多い。現在はほとんどの人が布パンツ使用となっている。但し、夜のおむつ交換がかえって安眠の妨げになるような場合は、柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や食事メニューを工夫し、水分補給に努め、体を動かすことの大切さも伝えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ入浴の順番など配慮し、体調に応じて安全でスムーズな入浴を工夫している。	以前は入浴に関しても問題がある人も居たが、現在は生活全般、穏やかに落ち着いている。入浴も特別な事は無く、原則として職員一人の見守りや介助・一日置きに午後の時間帯で楽しいお風呂となっているようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の生活リズムを把握し整え、日中の活動を促し、場合によっては家族、医師と相談し薬剤の調整に努めている。また午睡も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量の変更と本人の状態の変化を観察し医師への連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホールのモップかけ、米磨ぎ、食事の準備の手伝や野菜のしょうやく、干し柿づくり、縫い物、お花お茶など本人の得意分野で発揮してもらえるような場の提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、夏祭り、英国庭園散策、外食などの外出の機会を設け楽しんでもらっている。家族との外出も支援している。	地域の方々や家族との交流事業や行事計画で実施する外出・外食等の楽しみはもちろんだが、ホームの周辺の良い環境はちょっとした散歩や日光浴・外気浴にふさわしい。これからの良い季節には外に出るチャンスが増やせるだろう。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談し金銭管理に取り組み、使途に関しての報告も必要に応じて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	見舞いの絵手紙が届いたり、誕生日や敬老の日のプレゼントも届いたり、また、お礼の電話の援助もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の季節感や生活感を大切にしているのフロアづくりに努め、家庭的な雰囲気を味わってもらえるようにしている。	広いリビングは就寝時間以外の利用者の生活空間となっている。複数の居場所は設定されているが、今日は大きなテーブルの中央に飾られた桃の花等の春の到来を眺めながら会話も弾む楽しい輪が広がっていた。その輪は、時には塗り絵やパズル・ゲーム等の場となり、洗濯物たたみの場ともなっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間はすべてが視野に入りやすいため、ソファコーナーや長椅子でくつろげるよう配慮している。また、パーテーションの有効活用に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向や状態に合わせて畳かベットを選んでもらい、その人らしく居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。	このホームでは居室は寝室と言っても良い位、居間は全員皆と一緒に居たいようだ。人によって差があるが、かつて使い慣れた物を持ち込んだり、家族の写真や作品を部屋に飾っている人もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身機能の変化に考慮し、入居者の現在の状態に応じた環境の整備に努めている。		